



<HIV診療HOTワード>

【1】透析医療機関からHIV/AIDS出前・オンライン研修のお申込みが有り、オンラインで開催！！



昨今、HIV疾患が慢性疾患となり、生活習慣病や高齢化に伴う疾患の治療を行う必要がでてきています。その一つとして糖尿病があり、症状が進行すると透析治療を必要とします。しかし、HIV診療においては、正しい知識・情報がないことで、地域の医療機関でHIV感染症患者さんに対する受入れ拒否問題が今でも発生しています。

エイズ医療対策室では、この問題を解決すべく広島県透析連絡協議会のご協力を得て、県内の83の透析治療機関に対して、以下のHIV/AIDS出前研修のご案内と共に、本院患者の腎機能ステージ状況をご案内しました。

すると、すぐに県内のある透析治療機関から反応があり、オンラインで研修を開催させて頂きました。お申込みの理由は、今後問い合わせが来た際に、万全な体制で受け入れるためにも、今一度職員がHIVに関する知識を学ぶ必要性を感じられたからとのことでした。

私達はこの施設に対して、地域医療に対する強い使命感を感じ、職員の方々の学ぶ意欲に感謝を申し上げるしかありませんでした。今年度も、引き続き一つでも多くの施設に、研修のご案内を行い、正しい知識を提供できるよう努めたいと思います。研修ご希望の際は、いつでもご連絡お待ちしております。



【透析治療機関に向けた HIV/AIDS出前・オンライン研修のご案内】

◆HIV感染症について

HIV陽性者（HIVをお持ちの人）は、全国に数万人いらっしゃると想定されており、現在も増え続けています。決して稀な病気ではなくなっています。

一方で、HIV感染症の治療は、近年劇的に進歩しており、患者の平均寿命は、健常者とほぼ変わらないレベルになりました。ですから、当然高齢化に伴う慢性腎臓病の罹患、あるいは透析予備軍の人はこの疾患でも増加することが予想されます。

しかしながら、透析が必要なHIV陽性者をご紹介しても、「見たことがない」「分からない」「職員への感染が心配」「風評被害がある」などの理由でお断りになる施設もあるようです。

◆これからHIV感染症を学ばれる皆さまへ

「見たことがない」「分からない」ことは、恐れにつながります。その感情は、拒絶、疾患に対する偏見への入り口となるでしょう。

しかし、「幽霊の正体見たり、枯れ尾花」というように、相手を理解すれば恐れは消えてしまうものです。

「職員への感染」についても、ご心配は無用です。現在の抗HIV薬は非常に強力で血液からウイルスを消すことも可能です。つまり、ウイルスがないのですから、曝露しても感染はありません。さらにご心配であれば、曝露後予防策もあります。

このように、現在のHIV感染症の治療を正しく理解し、かつ皆さまが安心してHIV陽性者を受け入れていただけるようになっていただくことが、この研修の意義です。みなさん、構える必要はありません。軽い気持ちでお申込みいただければ、と思います。

<広島大学病院通院中のHIV感染症患者 腎機能ステージ分類による内訳>

◇通院患者数 189名（2021年10月現在）

慢性腎臓病（CKD）患者重症度分類ステージ

◆G3aA1またはG2A2（黄色） 26名

◆G3aA2またはG3bA1（オレンジ） 3名

表2 CKDの重症度分類

原疾患	蛋白尿区分	A1	A2	A3
糖尿病	尿アルブミン定量 (mg/日)	正常	微量アルブミン尿	顕性アルブミン尿
	尿アルブミン/Cr比 (mg/gCr)	30未満	30~299	300以上
高血圧 腎炎 多発性嚢胞腎 移植腎 不明 その他	尿蛋白定量 (g/日)	正常	軽度蛋白尿	高度蛋白尿
	尿蛋白/Cr比 (g/gCr)	0.15未満	0.15~0.49	0.50以上
GFR区分 (mL/分/1.73m ²)	G1 正常または高値	≥90		
	G2 正常または軽度低下	60~89		
	G3a 軽度~中等度低下	45~59		
	G3b 中等度~高度低下	30~44		
	G4 高度低下	15~29		
G5 末期腎不全 (ESKD)	<15			

重症度は原疾患・GFR区分・蛋白尿区分を合わせたステージにより評価する。CKDの重症度は死亡、末期腎不全、心血管死亡発症のリスクを緑■のステージを基準に、黄■、オレンジ■、赤■の順にステージが上昇するほどリスクは上昇する。

(KDIGO CKD guideline 2012を日本人用に改変) 東京医学社 CKD診療ガイド2012より

<HIV診療HOTワード>

【2】新たなHIV検査法は天才（ジーニアス）？ ～新HIV抗体検査ジーニアス法～



皆様、エイズ医療対策室長の藤井です。今年度入職された方も多いと思いますので、簡単に本院の「エイズ医療対策室」のご紹介をさせていただきます。1980年代に起きた薬害エイズ事件で、薬害被害者（主に血友病患者さん）が国や製薬会社を相手取って裁判を起こしました。1996年に和解となり、国は「恒久的なエイズ対策」を原告に約束しました。

その対策の一つとして、数年前から始まっていたエイズ拠点病院制度を発展させ、1997年に本院は国の指定する「中四国ブロックエイズ拠点病院」となりました。同年、エイズ・HIV感染症患者さんを専門にサポートするチームとして「エイズ医療対策室」が院内に設置され、本誌のような広報活動も行っております。

さて、HIV感染症の診断を行う検査にはスクリーニング検査と確認検査があります。確認検査は、長年ウェスタンブロット（WB）法と核酸増幅法（NAT；PCRとほぼ同義）が行われてきましたが、WB法は特異度は高いものの感度が低い、あるいは診断確定には感染機会から3～6ヶ月掛かる、などの問題がありました。



エイズ医療対策室室長 藤井輝久

2020年日本エイズ学会と日本臨床検査医学会が共同で、「診療におけるHIV-1/2感染症の診断のためのフローチャート2020」を発表しました。その中で確認検査法はWB法に替わり、**HIV-1/2抗体確認検査法（以下、抗体確認法）**が推奨になりました。しかし、当時この検査法を行う外注検査業者もなく、また保険収載もされていませんでした。

2022年2月、ついに抗体確認法は660点/回で保険収載されることになりました。本院の電子カルテの検査オーダー画面には現在、HIV-1 WB法並びにHIV-2 WB法がありますが、既に外注検査業者は受託を中止しておりますので、早急に抗体確認法への変更をしたいと思います。



尚、この方法は、イムノクロマト法ですので院内で測定できるのであれば、約30分で結果が出ます。ウィンドウ期は3ヶ月程度ありそうですが、院内で測定できるHIV-PCRよりも簡便で結果が早く出るメリットから、今後院内への導入も考えていく必要があるかも知れません。尚、抗体確認検査法の検査キット名は、「**Geenius（ジーニアス）**」と言います。さて、本当に天才（genius）なのでしょうか？

<HIV診療HOTワード>

【3】精神的不安を抱えるHIV疾患患者への支援の重要性を学ぶ <包括的HIVカウンセリング研修会の開催>

こんにちは。カウンセラーの杉本です。昨年度、オンラインで「包括的HIVカウンセリング研修会」を開催しましたので、感想も含めてお伝えしたいと思います。よろしければ少しお付き合いください。

この研修会は長年、「多職種参加型の症例検討会」を行い、グループに分かれて話し合い、その内容を全参加者とシェアした後に、ゲスト講師



エイズ医療対策室 公認心理師 杉本悠貴恵

によりコメントをいただくスタイルが続いています。各職種のスキル向上を目的とした研修ですが、HIV診療に携わる医療従事者は全体的に少ないので、「支えあいの場」でもあるように感じています。今回は、精神科医の佐伯俊成先生をゲスト講師としてお招きし、特別に基調講義をいただくことができました。

私は、佐伯先生のご講義の中で、『No health without mental health』という言葉がとても印象的でした。と言いますのも、ここ数年、SARS-CoV-19の感染拡大によって年中マスクを着用し、こまめな手指消毒が必要とされる生活に変わりました。そのおかげで、ほぼ毎年、インフルエンザにかかっていた私も（自慢ではないですが）コロナ流行後は、風邪すらひかなくなったというメリットもあります。ただ、身体は元気でも、余暇活動が「不要不急」と言われ続けると、気分の状態で「元気」のバロメーターは大きく変わってきます。

心理支援を行う立場として、患者さんのメンタルの悪化を見逃さないことは必須です。面談では、治療に関する話題だけでなく、睡眠や飲酒行動の変化、日々のストレスを含めた生活状況を多角的に把握し、よりよい生活が送れるようサポートしていくことが重要と感じました。

最後に、コメンテーターとしてお越しくくださった佐伯先生をはじめ、スタッフ・参加者の皆様に感謝申し上げます。

新HIV診療チームのご紹介

HIV診療チームは、医師（血液内科・総合診療科・感染症科・歯科）・看護師・薬剤師・歯科衛生士・臨床心理士・ソーシャルワーカー等で構成された、HIV感染症患者さんのための支援チームです。

毎週火曜日16:15～17:00に、多職種が参加して『HIV外来ミーティング』を開催しています。身体的、精神的、そして社会的な問題を抱える患者さんの現状を共有し、今後の支援方法を検討しています。

また、年に1回、広島県臨床心理士会が主催する「包括的HIVカウンセリング研修会」にチームで参加して、研鑽を積んでいます。



エイズ医療対策室 看護師 さかもと りょうこ 坂本 涼子

2022年4月より、エイズ医療対策室に配属されました坂本涼子と申します。2012年から広島大学病院の外來で臓器移植のコーディネーターを、2016年からは内科・外科の処置室の看護師として勤務をしておりました。今回、エイズ医療対策室に配属となり、HIV感染症患者さんの看護が初めてで、毎日の業務がとても新鮮に感じています。同時に、HIV実務担当業務は今まで行ってきた、臓器移植のコーディネーター業務に通じるものがあると感じています。しかし、新たなことの連続で、日々勉強に邁進しHIV診療チームの皆様のお力をお借りしながら、日々の業務に努めさせていただいております。

プライベートでは、4歳の1児の母として日々奮闘しております。休みの日には、子供と公園巡りと昆虫採集をしております。春になり、虫が多い季節になったため、昆虫採集に朝から晩まで走り続けており、月曜日の朝はぐったりしていることが多いかと思います。皆様にはご迷惑をおかけしないよう、ほどほどにしたいと思っております。育児と仕事を両立させてがんばりたいと思っております。至らないこともあるかと存じますが、一日も早くお役に立てるよう努めますので、ご指導・ご鞭撻の程よろしくお願い致します。



令和4年度中国四国ブロックHIV研修会・会議スケジュール

お問い合わせ： 広島大学病院エイズ医療対策室・広島県臨床心理士会

TEL&FAX： 082-257-5351 (直通)

中四国エイズセンターホームページ： <http://www.aids-chushi.or.jp/>

詳しい研修会・会議のご案内は中四国エイズセンターホームページをご覧ください。



事務局：広島大学病院エイズ医療対策

作成日：令和4年4月1日

医師 日本エイズ学会 認定研修会	令和4年8月29日(月)・30日(火) 会場：広島大学病院(広島市) 2022年度中国四国地方エイズ診療医師のための研修会(1回目)
	令和4年9月26日(月)・27日(火) 会場：広島大学病院(広島市) 2022年度中国四国地方エイズ診療医師のための研修会(2回目)
歯科医師 歯科衛生士	令和4年10月23日(日) 会場：未定(岡山市) 第13回中国四国地方HIV陽性者の歯科診療体制構築のための研究会議
	令和4年12月4日(日) 会場：未定(未定) 令和4年度広島県歯科医師会の会員・準会員のためのHIV感染症に関する講習会
薬剤師 日本病院薬剤師会 認定研修会	令和4年12月頃 オンライン 第41回薬剤師のための抗HIV薬服薬指導研修会
看護師 日本エイズ学会 認定研修会	令和4年6月30日(木)・7月1日(金) 会場：広島大学病院もしくはオンライン 第43回看護師のためのエイズ診療従事者研修
	令和4年7月28日(木)・29日(金) 会場：広島大学病院もしくはオンライン 第44回看護師のためのエイズ診療従事者研修
	令和5年1月28日(土) 会場：広島大学病院(広島市) 令和4年度看護師事例検討会
	令和4年11月12日(土) 未定 令和4年度中国・四国ブロックエイズ治療ブロック/中核拠点病院看護担当者会議
ソーシャル ワーカー	令和4年8月27日(土)・28日(日) 会場もしくはオンライン 第18回HIV/AIDSソーシャルワーカー・ネットワーク会議、研修会

事務局：広島県臨床心理士会(広島大学病院エイズ医療対策室)

心理職 福祉職	令和4年12月頃 オンライン 令和4年度第1回HIV/AIDS専門カウンセラー研修会
心理職	令和5年2月頃 会場：未定 令和4年度第2回HIV/AIDS専門カウンセラー研修会
	令和4年7月30日(土)・31日(日) オンライン 令和4年度心理職対象HIVカウンセリング研修会(初心者向け)
	日程：未定 会場もしくはオンライン 令和4年度中国四国ブロックエイズ治療中核拠点病院 HIVカウンセラー連絡会議
医師、保健師 心理職など	令和4年6月17日(金) オンライン 令和4年度HIV抗体検査相談従事者のためのカウンセリング研修会
全職種 日本エイズ学会・ 日本病院薬剤師会 認定研修会	令和4年9月18日(日) 会場：未定(広島市) 令和4年度包括的HIVカウンセリング研修会

